

【めむろ未来ミーティング日程 17】

令和 2 年 1 月 20 日（月）

13:30～15:08

上芽室農業研修センター

■参加者 3人

■芽室町 町長、企画財政課長、農林課長、建設都市整備課長

■記 録 矢野

■対応・検討が必要な事項

①小学校と中学校の支援の差の件（学校教育課）

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 質問事項の回答
- 4 意見交換

【意見】

去年も話をしたと思うがこのセンターの構想の関係と隣にある保育所の件。

町の地域福祉館が順次更新されていく中で、ここは町内の中では新しい建物ゆえまだ先の話だろうということで地域としても「まだここはここで使えるから良いだろう」というような話も出ているのが現実だ。

実際、この上芽室地域の農業研修センターというのは、耐震も含めて今後どのくらいの予定で考えているのか、また保育所をいつまであの状況にしておくかを聞きたい。

【企画財政課長】

このセンターは昭和55年の建設ではあるのだが、町内にはもっと古い建物は沢山あり、比較的新しい施設である。

現在、基本的には古い建物から順に改修を進めているため先程の図面にはまだ載っていないが、町としてはその次の時期には、建て替えをするのか改修をするのかということについては未定だが、何らかの手立てはしていきたいと考えている。

今の想定では令和4年度・5年度頃というのを考えているが、まだ確定的なことは申し上げられない。仮にその時期に決まったとしても、来年度から少しずつ協議をしていかないとスケジュール的に間に合わないで、具体的な時期は決まっていないが何処かで協議の場を設けて、今後のスケジュール等含めて話し合っていきたい。

ご質問の保育所の件についても、それと併せて考えていくという形になる。

【意見】

北伏古の場合も保育所も使い方を変えていくしかないという話を聞いた。ここに関しても、保育所は保育所なりに年数が経っているのをそれを踏まえて考えるべきかもしれない。

【企画財政課長】

確かに、先程の説明で北伏古の保育所を使ってということ話をしたが、実際は大幅にリニューアルする形になると想定している。基礎は使用するが、それ以外は規模も変わるし、古い建物ということで何処まで変わるかは分からないが、ただ町としては、少しでも使える物は使っていこうという大きな方針がある。金銭面の話をすると古い建物を少しでも活用すると国から補助金が出る制度がある。やはり皆さんの税金でやっていることなので少しでもこうした補助は利用したい。

【町長】

「改修」という言葉だけだと、何となくガワはそのままで内装だけ変えるというのをイメージされると思うが、そうしたことよりは、仮にここを使うとなっても改築に近い形になると思う。地域の方々と私たちの「改修」のイメージがずれている所はあるかもしれないが、現実としてはやはり完全リニュー

アルという形になると感じる。

町からも呼びかけるが、できるだけ早く地域で考え方がまとまった方が色々とスムーズに進むので、地域としてこういった機能を求めているかなどの議論を積極的にやっていただけると町としても計画を早く進められる。

町の計画は、年間3つの施設を着手しようという考え方を持っているが、実際は話が上手く進まないなどで、令和2年度も1つの施設ということになっている。

しかし、地域の意向・合意さえ早い時期にまとまれば、それだけ早く取り組める可能性もあるので、規模を含めて地域で色々と検討願いたい。

【企画財政課長】

他の地域では、調理場は炊き出しもしないから少し小さくして良いという意見や、車いすサイズが使用できる広めのトイレという要望がある。

【町長】

是非、話し合って意見をまとめていただきたい。女性の目線なども非常に大切と思うので、地域の皆さまで協議をお願いする。

【意見】

芽室西小学校・芽室西中学校の子どもの人数というのは今後どのような感じになっていくのか。芽室西中学校の部活の種類も大変少なくなっているというのが現状で、子どもに聞いても「運動部でも入れるものがない」とのこと。

そうした意味では、今後の生徒数や児童数の推移は非常に気になる所である。

【町長】

今年の成人式で20歳になった子が207人、芽室町の中学生の今年度の卒業生が160人ということでそこで既に40人も減っており、さらに今年の出生者数が100人切っている。これらのことから、明らかに全国同様に少子高齢化が進んでいることが分かる。仮に100人の子どもたちがいて、上美生小学校

や芽室南小学校に入学する人数を引くと、芽室小学校・芽室西小学校で80人程度となり、35人学級では3クラスあれば良いということになってしまう。もう一度学区や学校の在り方というものを考えなければいけないタイミングは近く迫っている。将来的な人口減を見据えて、学校自体の展望という考え方にも必要になってくる。

そうしなければ、今仰ったように、部活なども人数や指導者不足の問題も厳しく、柔道など実際にやりたいスポーツをできない子たちの話も聞いているので、そうした問題の解決は難しい。今後それも含めてしっかり今後の在り方を考えていくことになる。

今現在の段階でやれることと言えば、例えば部活動の指導者不足であれば教育長を筆頭に、いかに学校の先生で経験のある方に来てもらうことも考えられる。

まとめると、今の所はそうした指導者確保の動きをしつつ、将来を見据えると正直な所、交通手段などを整備した上で学校再編のようなことも考えなければいけないと感じている。ただ、学区の再編というのは様々な影響があることから、保護者はもちろん地域の方も含めて慎重にやらなければいけないことも理解している。

【意見】

現在の町内では、東めむろが宅地造成で人口が多くなっていて、鉄南が一時期多かったけれどまた減ってきてといった人口の流れがあるが、そうした中で車両センターを住宅地にしたところでどれだけ増えるのかという疑問がある。

【町長】

西地区の車両センター付近にかなりの新しい住宅が建ち、小さい子ども沢山おり、西地区は今後増えていく傾向にあると考えている。

南が丘地区や東めむろ地区のような大団地は出来ないが、若い人が地価も比較的安価ということで芽室町に建てたいというニーズが多いことも事実であり、南児童館や車両センター辺りの戸数であれば需要もあると感じるので踏み切りたいと思っている。

【意見】

運動部の件。芽室町でテニスの少年団があり、そこでテニスをやっていた男の子が中学校に入って、中学でもやりたいのだが部活が無いという問題にぶつかった。芽室西中学校は上の先輩方が同好会という形で学校にお願いしてやっていたが練習環境が整わないこともあった。

芽室中学校と一緒にやればいいのかということになっても、学校間の関係もあり、中体連には出られないということや、他の学校を借りることによる責任の所在が難しいということがあり、それも厳しかった。子どもたちがちゃんとやりたいことを出来るような環境を作っていただきたい。

【町長】

今、町で北海道十勝スカイアースと連携を結んでいる。皆さんのイメージでは単純にサッカーを連想するかも知れないが、実は、彼らが目指している所は総合型スポーツクラブであり、そのネットワークで、例えばサッカーだけでなく、様々なスポーツの指導者を連れてくる事が出来る。彼らのような組織がこの地域に根差して総合型スポーツクラブをやるのであれば、町としても支援したいと考えている。

やはり町だけで色々やろうとしても、人的なネットワークなど難しい部分がある。そうした意味では今後指導者育成などの可能性はあると思う。今後も、スカイアースだけでなく、日本ハムファイターズ、バドミントンもやっているコンサドーレなど、そうした繋がりを持った中で連携しながらやっていきたい。組織のほうも地域貢献したいという部分があるので、そこと町の意向が一致することで、十勝発の総合スポーツクラブのようなものができていけば、現段階で不足している受け皿にもなりやすい。すべての競技をということは難しいかも知れないが、上手く活用したい。

【意見】

農業の後継者問題の件。先日 JA でもその話をした中で、後継者の配偶者がいないという問題に関し

て、どう考えているかという話を投げかけたが、最終的にいつも「個人の問題だね」という所に行きついてしまう。

相談員の方々からも、「何を言っても中々聞いてくれない」「何かしら仕掛けてもあまり乗って来ない」という声を聞く。JA の抱えている問題なのだから何とかしてくれないかと言っても、JA の方もどうしたら良いか考えあぐねている状況。

JA 青年部も含めて 40 歳までの独身が 120 人～130 人という数字を見せられた時には流石に愕然として、前組合長の時に「これはもう今から手を打っても遅い。せめて 2 割程度に減らしていくしかない」という話が出て終わった。いくら難しいことと言っても、手を打たないままでは農村地域は加速的に枯渇していくばかりだと思う。うちの地域や周辺もほぼ独身という状況になってきて、この先コミュニティも維持できなくなる。

やはり後継者の結婚について、押し付けたからすぐにするという物ではないと思うが、何かしらもっと積極的な手立てを取らないと駄目だと思う。町に言っても困ることとも思うが、独身の方々のマイナスの結婚観というのをどこかでひっくり返したいという思いがある。

【町長】

私も、それに関してはすごく危機感を持っている。経営自体や、結婚問題も勿論そうだが、現在、600 戸前後ある農家が毎年 10 戸程度ずつ離農している。土地を経営拡大ということで土地の売買に手を挙げる方も多いが、平均 35 ヘクタールだったものが 40・50 ヘクタールになった時にどこまでやれるかという問題や、さらには家族経営でどこまでやれるかという問題がある。そうした意味では、やはり新規就農を受け入れるような体制が必要だと考えている。新規でいきなり 40 ヘクタールというのは出来ないの、一旦農業を勉強する期間というものも必要。そこで考えているのが、この雇用促進住宅である。基本的に 1 年までの期間だが更新も出来るようにしているので、おためし的に住んでいただくことを兼ねて農業を学び働くという形を想定している。

今までの町の体制では雇用と住宅がセットになっていなかったため全国に PR 出来ないという部分があったが、やはり冬も含めて通年で出来る仕事と住宅とがあれば憧れを持って来る人も多くなると思っている。

また、先日大阪の移住フェアに行った。話を聞くと移住を真剣に考えている関西の女性たちの中で、農業者と結婚したいという人はやはり居た。しかしそうした希望者が居ても、先程言ったように住宅や通年雇用が無いと話が進まない場合がある。

町として住宅や仕事を整備していく中で、そうした結婚希望の女性の方々に来てもらい、独身の農業者と知り合うチャンスがあればいいと思うので、そうした基盤作りというのは JA だけではなく、むしろ町も危機感を持ってやっていきたい。

【意見】

冬場の仕事と住宅の整備に関してもう少し詳しく聞きたい。

【町長】

これはもう食品加工会社に依頼しているが、東工業団地の色々な所とすでに交渉している。冬は東工業団地で例えば食品加工業などをやっていただいて、夏は畑作をやってもらうというような形でやっていく予定。酪農のほうは通年雇用であるし、どちらかというと酪農家が外国人労働者の方々を含めてご自分で住宅等用意している所が多い。

ただ、問題は圃場までの移動手段をどうするかということで、その解決までには至っていないが、基本的には個々の雇用主の考えに委ねる形になる。

この雇用促進住宅がもし盛り上がってくれば、上美生などの活用されていない実習施設を活用して第二、第三弾のそうした住宅を設置ということも考えている。

よく言われるのが、新得のレディースファームのような、女性が勉強を出来る所があるとありがたいというご意見。実際に私も見に行ったが、その後就農されたり結婚されたりしている方も少なくないので、女性にターゲットを絞った何かをやるという考

え方も良いとは思っている。

【意見】

先程のような、結婚の問題は中々難しい課題ではあるが、今の話にプラスして世の中では女性の活躍というのがよく叫ばれていて、そうは言っても女性の地位はどうなんだという問題がある。

農家を見ても昔ながらの男社会が未だに残っている感じがあり、女性を軽く見ている部分があると思う。JA の中でも 50 代以下の女性正組合員の割合がすごく少なく、農家の人も 4 割しか正組合員にしない現状がある。

女性の活躍といって役員にしようとか相談員にしようということを考えても、正組合員にもなれないのに役員になってくれないという問題があり、農家としてはそうした所が全然広まってこない。

町では役所などで働いている女性の方も沢山いるが、農業社会では中々そうした環境が作れないという部分を町としても色々な面で支援していただきたい。

今言ったようなレディースファームなど町の中になければ、そうした外から刺激を与えられるような仕掛けを組んでいただきたい。

【町長】

何か 1 つやればそれで良いという訳ではないので、総合的にアプローチしてしたい。最終的に JA の協力が必要かも知れないし、そうした「皆でやる」というイメージを持ってやっていきたい。私も農林課時代に後継者問題で、農業委員会・町・JA それぞれの感覚でやっていたのは駄目だということで会議体も作って、カルテ化など情報の共有を心がけている。そうした動きを加速していきたい。

【意見】

後継者問題については、農村部だけでなく、町中の家族経営をしている商業者も工業者も一緒だと思う。農家だけで考えるのではなく、町全体が活性化できるように、後継者問題を解決できるように一緒に考えられる機会があっても良いと思う。

また、同じ世代の既婚者がどういう経緯で結婚したのかとか、そうした話を聞ける場所も必要と思う。独身者側も、60代とか70代とかの上の世代に、単純に「結婚しろ」と押し付けられても乗り気にならない部分はあると思う。

【町長】

結婚相談員と未来ミーティングをやったが、そうするとやはり地域の、昔から知っているおじさんやおばさんにプライベートなことを聞かれたくないという人が多いという。

そこでまず要望をいただいたのが、役場で事務局を持って職員を置いてくれないかということだが、中々難しいので、町としては農業だけでなく商工業等の産業全体・町中全体としてそういったフォローができる人、例えば地域おこし協力隊のような人を連れて来てやっていただくということも色々と考えてみた。

農業振興計画について説明を農林課長が行う。

【農林課長】

ただ今ご意見があったように、農業者だけでなく他の方も交えた議論という所でいけば、町長が話されたように農業振興計画というのを現在作っている。各部会に分かれている中で、「担い手対策部会」というのがあり、その中で農業者の担い手対策をどうやって進めていけばよいのかを、生産者の目線だけではなく、消費者・一般町民の目線も交えて対策を考えていこうということで今まさにやっていただいている最中。そこで出た意見を踏まえながら我々も新しいアプローチの仕方などやっていく。

【意見】

農地についても、今まで10年単位くらいで大体進んでいる基盤整備を今から進めていけるような方策を打ち出しながら国にも申し入れて行かなければ大型化への対応が間に合わないと思う。そうした部分では、まだ町の取り組みが足りないと感じる。

【町長】

今、国土強靱化が3か年と言われていて、令和2年度で3年目になる。現在十勝でも要望しているのは、その後もそのまま国土強靱化を進めてくれということ。農地の災害に対する機能などもあるので、これからも基盤整備は必要という話をしている。私もそれなりの農業政策の経験はあるので、今後の情報や何かについても注視しながら早めの策を取っていききたい。

【意見】

観光への質問。嵐山のこれからの関してはちらほら聞くし、去年も説明を聞いた。今回の公園・温水プール周りの活用について今後どうするのか。

例えば、芽室公園。子どものいる家庭は噴水に遊びに行ったりするのだが、国道側の駐車場が遊ぶ人以外、寝泊まりする人なんかが使っていて泊められなかったり、芝生もファミリーでは遊びづらく、またイベント事も無いのでそもそもあそこに人自体があまり集まらない。場所自体はとても良いと思うので、十分に活用されていないのは非常に勿体なく感じる。

【建設都市整備課長】

ピウカ親水公園の話については、以前から町の方でも色々構想はあったが、ピウカ川を管理している北海道のほうで令和3年度から河川整備といって川幅を広げるなど安全な川にする工事を行うことになり、それに合わせてその周囲を町も公園として整備しようということになった。

例えば、堤防を整備したり、一部川に近づいて降りられるような遊歩道を整備したり、後は花菖蒲園辺りに幼児用の浅めの噴水か遊具などを置きたいという構想を持って現在設計を進めている。着手は令和3年度から何年間になるか分からないが、北海道の河川整備と歩調を合わせながら進めていきたいと思っている。

芽室公園について。芝生も綺麗で外部からもかなり人も来るということで、こちらについても再整備の構想を考えていきたい。というのは、もう噴水も

老朽化してきており、ポンプも結構壊れたりしている。よって、遊具等も含めて、全体でどのような公園にするかというのは、また今後ピウカ親水公園の次に再整備を考えている。

【町長】

現在、奥のほうの左側に遊具はあるのだが、日陰でははっきり言って誰も分からないような所である。どういう計画になるかは分からないが、噴水を改修して、その遊具についても他の場所に移すことを含めて検討したいというのが1つ。

花菖蒲園や親水公園を含めて一体的に動けるような、そうしたイメージを現在持っているので、その計画を近々立てて行こうと考えている。ある程度自然を残した、自然の良さを活かした公園が理想である。仰るように、半日だとか一日十分遊べるような雰囲気のものにしていきたいなという思いはある。

次に嵐山の話。1月末に現時点の町の考え方を公表するシンポジウムを予定しているので、色々ご意見もいただきたいと思っている。もうゾーニングはある程度決めており、家族や女性といった層も含めて1日遊べるような場所にしたいと考えている。今のパークゴルフが悪いという訳ではないが、この先ずっとパークゴルフだけで経営する訳にはいかないので、ファミリーで来ても1日楽しめるような、例えば今話題のグランピングやドッグランが楽しめるような場所にしていきたい。頂上の利用の中でジップラインや夏場のリフト利用、林道の整備なども構想しており、自然の資源を十分に活かしたいと思っている。

【意見】

今町長が言われたように、芽室公園も含め、色々な所からの意見を聞いて話を進めていることだと思う。公園の問題も半日でも楽しめるような、また通年通して遊べるようなものを作ることが大切だと感じるのでよろしく願いしたい。

スキー場の件。芽室のようなスキー場でないとこの先残っていかないと感じる。というのは、他の地域の色々と手の掛けられたスキー場はどんどん破綻

しており、実際に去年も2か所で終わっている。これからは「ローカルだけれどファミリーの集える山」という観点が、今後の山づくりやスキー環境づくりには必要だと感じた。

町長の話にも出たジップラインはどの山でも考えてしまうことで、そこまで考えているなら夏も出来るスキー場というのも考えてはどうか。例えば、ローラースキーにしても人工芝にしても可能性はあると思うので、リフトの夏営業ということを考えるならば、そうした方向も検討してはどうかと提案したい。牧場の関係もあるので出来ないことも多いと思うが、そうした視点も含めるともっと広がると思う。現在行っている自転車の件も含めて、いずれ壊れたり建て替えが必要な人工物ではなく、自然のエリアを活用しながら、人が増えるチャンス・雇用が増えるチャンスというのを広げてくれると嬉しい。

【町長】

私も去年野遊びリーグを経験して、やはりしつらえだけで物凄く高級感が出て、変わるということを改めて実感した。初めてだったが、Aコースの下で食事をして宿舎のほうを見た所、照明がとても綺麗で改めて「宿舎ってこんな格好いい建物だったんだな」というのを感じた。展望台の星が綺麗だったり、新たな発見が出来るような所にしたい。

単純に芝生に転がって景色や星を見てくださいというのではなく、しっかりとしつらえをして、ゆっくりそれを楽しめるような所があれば大分変わって来ると思うので、そうした部分にも気を使いながらやっていきたい。

【意見】

サッカー場の件。JAの牧草地を利用してやっているが今後どうなるのか？

【町長】

私たちとしては正直、十勝川の河川敷にあったサッカー場も流れてしまっているので、しばらく使わせていただきたいというのが正直な所。

芽室中学校の横にも作っているが大会の使用を考え

ると非常に貴重なサッカー場である。

野球場に関しても、ひとつ流れてしまっており、野球の大会は大きな球場が2つ必要であり、社会体育施設の構想の話になるが、中学校のグラウンドを整備して活用できないか検討している。ただ、中学生も共用するということでさまざまな問題は出てくるが、その辺りは何とかクリアにしたい。

【意見】

親水公園がピウカ川ということでピウカ橋までの構想になっていると思うが、それで行くと西中を挟んでもう一本橋がある。ちょうど踏切を超えて南側の橋のことだが、あそこまでの区間も、今はどちらかという雑木が多いし、結局区域としてあまり整備されていない状況で芽室西中学校がある。

今の構想を聞いている限りだとその地域周辺に関する構想というのがあまり無いので、そちらも盛り込んでほしい。

【町長】

ご意見感謝する。時間は要すると思うが、ピウカの改修については恐らく10年スパンくらいの長い期間ですずっとやって行くので、その中で水が溢れるのを防ぐ整備等やりたいと思っている。

親水公園も、散歩等出来ることを想定しているので、是非完成したら町民の皆さんにも活用してもらいたい。

【意見】

子育ての件。昨日公民館で発達支援的な講演会があった。芽室町の発達支援は本当に良くしてもらっているという声があって、北見などからわざわざ調べて引っ越しして来てくれる方もいるほど。

学校に行っている間、それこそ中学校くらいまでは支援が本当に手厚く、有難いと感じているが、その上に行った後、高校なり卒業した後の支援や、親が死んだ後どうして行くかということに関しての支援が不十分だと感じており、結構悩んでいる人が多い。

グループホーム等も検索してみるが、なにぶんニ

ーズの数に対して施設の数が少なく、中々難しい問題と思う。やはり、どんな子でも自分で自立して生活していかないといけないことを考えると、自立するだけ働けるような所が現状無い。

特に、グループホームのような所に入れるような、手帳を持っているような子たちよりも、そこまで行かないグレーゾーンの子たちはもっと沢山いると思うし、それこそ不登校になってそのまま大人になってしまう子なども、今現在中学校でも1学年に数人の不登校児がいることを考えると、恐らく芽室町でも結構な人数がいると思う。

【町長】

最終的には私たちも就労まで持っていきたいという思いがあり、それが発達支援システムということで、結構全国的にも評価をいただいている仕組みだが、高校になると情報としては少なくなるのが実態。ただ、町としても、それこそカルテのようなものを作っているの、保健師が高校を卒業した段階、高校にいる間だとかに情報提供などで把握はしており、その人たちの人となりというのはずっと整理しているつもり。

本当にこの問題に関しては仰る通りで、重度の子というのはどちらかというとグループホーム等の施設に入るという部分があるが、一部の重度の子や比較的軽い子たちは九神ファームなどで活躍しており、非常に社会貢献もしているし、また最低賃金以上をもらっているということで経済的にも自立できている。中には、メンバーとして入って働いて、指導が出来るレベルまで仕事が上達して社員になった方もいる。

農業者の労働力として活躍していただけないかという取り組みも考えており、私としても農福連携という形で積極的に進めていきたい。

【農林課長】

農福連携というと皆さんイメージはされるが具体的にどうしていいかわからないという状況だったので、去年オークルと生産現場を繋ぎ、かぼちゃとゆり根の作業のほうに関わってもらった。

実際に関わって理解する前は、「何も出来ないだろう」というイメージを持っている方がいたのだが、雇った後にアンケートを読むとしっかり働いてくれるし、1年目にしてはかなり合格点というような評価もあるので、それを今年も続けていきたいと思っているし、他の作物や他の生産者に広げていくような取り組みをしたい。

【意見】

ただ、特性というものがあるので、本当にそれに向く子とそうで無い子というのは大きく分かれると思う。その辺りを農家に対してしっかり説明することと、農家側の理解も求めていると、その子たちが辛いことになると思うので、そこは徹底して行ってもらいたい。

それともう1つ。出来るだけ小さい頃に親が「もしかして」と気づくのが早ければ早いほど療育も手厚く受けられることと思うが、親が初めての子育てで分からずある程度大きくなってから分かることも多い。検診の時などにある程度気付ければ早い段階で専門の方に見てもらえる機会もあると思うので、町のほうもそうした意識を持ってほしい。

【農林課長】

子育て支援課長だったこともあり私から説明する。

発達支援システムというのを作った時に、全国と同じ6ヶ月で検診を行っていたが、それで本当に今仰ったような「気づき」が出来るのかということで、芽室町は9ヶ月に検診を行うことで、しっかり情報を見ていこうということになり、システムの中で独自の見直しを行っている。

【意見】

実際、親や周囲が「おかしい」と気づいたとしても、当の母親がそれを受け止めるまでが厳しいと思うし、他の家族に説明をしなければいけないのが高いハードルだと思う。

また、そうした子たちが学校等で受け入れられるような環境が無ければ、結局学校生活の中で「あの子変だよな」と揉まれていって不登校になってしま

うということがあると思うので、それこそ理想論ではあるが、「みんなちがってみんないい」的な教育があれば大分違うのかなと感じる。

【町長】

それぞれのパターンもある。個別のケースにはそれぞれに寄り添う形にしないと、一律でやるという訳にはいかないで、そこは保健師含めて本当に大事にケアしていきたい。

【意見】

小学校の支援と中学校に行ってから支援というのが全然違うと感じる。小学校では本当に皆で手厚くというか、その子その子に合った支援といった形だが、中学校になると担任はいるのだが教科ごとに変わってしまうというのがあって、人数的な問題で仕方がないのだが空いている先生が来るという形になり、理科の先生が英語を教えたり、体育の先生が数学を教えたりということになっている。

中学校の後に高校に進学することを考えると、その教科の専門でない先生が教えることでどうしても遅れなどが出るのが心配というか、小学校と中学校の支援の差があるというのを認識してほしい①。

【町長】

色々事情もあるので抜本的に変えられるかは分からないが、小中学校の違い等、一つのご意見として教育委員会のほうにも伝えさせていただく。



15:08 終了